

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価計画

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

1 前年度 評価結果の概要	<p>全職員が、年度当初に設定した学力アクションプランの成果目標を達成しと自己申告できた。PW→GW→CWを意識した授業を行っており、タブレット端末の利用もさらに推進されてきた。昨年度基礎学力の定着が課題に挙がっていたので、年度当初朝の時間の工夫としてチャレンジタイムを設けた。その結果、県の学習状況調査では、4年生の算数の知識・理解面が伸び、5・6年生も平均より高かった。今後も継続して取り組んでいくようにしている。</p> <p>学校では、毎月「なかよしアンケート」をとったり、生活指導協議会で気になる子の情報を共有したりして、共通理解をして気になることがあればすぐに対応して保護者にも連絡しているが、アンケートの結果から、保護者は少し垣根があるように感じてもらえることが分かった。次年度は、相談しやすい学校を目指して取り組んでいきたいと思う。</p> <p>望ましい食生活の実施という面では、児童の啓発だけでなく、保護者への啓発の方法も考えていく必要があると感じるが、家庭によっては、難しい面もあると思う。まずは、児童への啓発をさらに高め、保護者へ広げていきたい。</p> <p>担任のこだわりが、勤務時間を延ばしている要因の1つと思われる。児童対応の確保という面では、目的に応じているが、職員の健康面の心配がある。次年度は、定時退勤日の徹底を図っていきたい。</p>
------------------	---

2 学校教育目標	「納所がすき！」「学校がすき！」と言える子どもの育成
----------	----------------------------

3 本年度の重点目標	<input type="radio"/> 「心を育む活動」の充実・・・か（感じて考えて）思いやりのある行動づくり <input type="radio"/> 「連携教育」の強化・・・つ（つながって）コミュニケーションづくり <input type="radio"/> 「主体的に学ぶ力の育成」・・・ぜ（全力で）基本的な生活習慣づくり <input type="radio"/> 「自己有用感・肯定感」の向上・・・こ（根気強く）基本的な学習習慣づくり
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	主な担当者
---------------	------	--------	-------

(1) 共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教員を90%以上にする。	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。	*	*	*	*	*	*	
	○学習意欲と成就感を育む授業づくり	○「勉強がわかるようになった」の質問に対して、肯定的な回答をする児童を80%以上にする。	・授業や朝の時間を活用してのチャレンジタイム、家庭学習を関連させ、前年度の学習内容を含めた基礎基本の定着を図る。	*	*	*	*	*	*	学力向上対策コーディネーター 研究主任
●心の教育	●児童生徒が、他者への思いやりや社会性を身に付け、豊かな心を育む教育活動の充実	○自分から進んでの「あいさつ」や丁寧な「言葉づかい」ができる児童を80%以上にする。	・「あいさつ運動」を実施したり、「言葉づかい」について考える授業を行ったりして、意識付けと実践化を図る。 ・どの学年も道徳の時間に「県版人権教材」を取り扱い、人権についての意識を高める手立ての1つとする。	*	*	*	*	*	*	道徳教育推進教師 人権・同和教育担当者 生活部
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめについて組織的対応ができていと回答した教員90%以上にする。	・毎月なかよしアンケートを実施する。生活指導協議会では、気にかけてほしい児童への支援の在り方について話し合い、全職員で対応していく。 ・いじめの対応についての研修・会議を年間に2回以上行う。	*	*	*	*	*	*	生徒指導主事
	◎特色あるふるさと学習・体験学習の充実	○地域の「ひと・もの・こと」に学ぶ学習を通して、「地域が好きだ」と答える児童を80%以上にする。	・生活科では「肥前町の施設を知る」学習、3年社会で「肥前町の産業や人を知る」学習、総合的な学習の時間には「ふるさと体験学習」を計画的に入れ、児童が郷土に興味関心をもつ授業を実践していく。	*	*	*	*	*	*	*
●健康・体づくり	●望ましい生活習慣と自己管理能力の育成	●メディアのルールについて家庭での約束が守れている児童を80パーセント以上にする。	・生活チェックを年5回実施し、その結果をもとに、学級活動や保健の時間に「生活習慣の大切さを考える授業」や講話を実施する。特にメディアコントロールについて取り組む。	*	*	*	*	*	*	保体部 各担任
	○体力づくりにつながる運動遊びの奨励	○学校で多様な運動遊びを楽しむ児童を80%以上にする。	・県スポーツチャレンジの種目や運動遊びを紹介し、多様な運動に親しませる。 ・児童会活動（健康委員会）を通して、雨天時の室内での体力づくりの例なども紹介し、運動を奨励していく。	*	*	*	*	*	*	保体部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在職等の削減 ○毎週金曜日の定時退勤日を守る職員を100%にする。	・定時退勤日を週に1日設定し、確実に取り組むよう、呼びかけていく。 ・見通しをもって早くから取り組むなど、タイムマネジメントの意識化を図る。 ・学年毎で使用データの共有化を図る。	*	*	*	*	*	*	管理職 各担任

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○一人一台端末の活用	○タブレット端末の活用	○タブレット端末を使って学力向上に取り組んだ教員を100%にする。	・校内研究に、タブレット端末を用いた授業を1本の柱に据え、教育情報化推進リーダーとICT支援員を中心に研究の推進を図る。 ・タブレット端末を使用した授業を計画・実施して、協働学習や個別最適な学びを目指した活用を図る。	*	*	*	*	*	*	
○閉校・3校統合に向けた取組	○閉校に向けた取組と統合に向けた3校交流の推進	○閉校に向けた取組を確実に実行する。 ○統合に向けて不安がないと思う児童を90%以上にする。	・閉校事業部会で話し合った内容を育友会と職員に周知し、最終の閉校式典が成功するように取り組んでいく。 ・3校の職員の話し合いを綿密に行い、交流事業を通して児童同士が楽しく触れ合うことで、統合への不安をなくしていく。	*	*	*	*	*	*	管理職 教務 各担任

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	<p>・</p> <p>・</p> <p>・</p>
--------------------	----------------------------